

今年も7月3日(金) 関東同窓会総会が開催された。

—大地震は対岸の火事ではない—(講演)

静中・静高 関東同窓会 会報

第35回 関東同窓会のご報告

87期 石川 嘉和

七月三日(金)、静中・静高関東同窓会総会がKKRホテル東京で盛大に行われました。来賓として、母校校長浅羽浩氏、本部同窓会会長荻野覚氏(71期)、本部同窓会事務局長三浦俊一氏(89期)、中部支部支部長の本告(もとおり)光男氏(59期)の各氏がおいでになり、159名が一堂に会しての総会となりました。

司会は幹事期、87期の柿沼佳子さん。まず関東同窓会の清水汪会長(59期)より開会の挨拶があり、その後本年四月に静高校長に赴任された浅羽浩氏から母校の現況などをふくめ挨拶をいただきました。その中で、叩高新聞の現況についての興味深い考察があり、「今月で313号となる叩高新聞は、創刊以来六十三年の歴史のある学生新聞で、昭和三十年代、四十年代は学生運動の盛り上がりや反映した内容となっていたが現在はイベントの紹介などが主になっている。とはいものものの社会の動きに対する

関心の深さをうかがわせる記事も多く意識の高さを感じさせるものになっている」とのことでした。

また、本部同窓会荻野会長から野球部関連で、近年甲子園出場が減っているため野球部後援会への寄付金も激減しており、後援会への新規入会や寄付応募をお願いしたいとお話がありました。

来賓の挨拶に続き、野方副会長を議長として総会の議事が執り行われ、平成二十年度事業報告・会計報告、平成二十一年度事業計画・予算案、平成二十年度監査報告が承認されました。

総会の後、(東京大学生産研教授)87期の小長井一男氏に「大地震は対岸の火事ではない—四川と静岡の類似点を探る—」と題して講演をしていただきました。

ユーモアを交えながら専門的な難しい内容をわかりやすく語る小長井教授の話に会場の同窓生も真剣に聞き入っていました。静岡市内の具体的な地名を出して、パキ

静中・静高関東同窓会
会報 第68号
平成21年12月30日発行
編集人 村松 貴彦
(77期)

スタンや中国四川との静岡の地形的な類似点を豊富な画像を使って説明されるため、他人事として聞くことの出来ない迫真力がありました(詳細は別項目)。

真剣な講演のあとは気分を変えて懇親会に移り、おなじみの静岡から取り寄せた黒はんぺん・わさび漬をつまみながら、ひさしぶりに会った旧友と、あるいは同じ学びで学んだ先輩後輩の縦のつながりでのなつかしい話に懇親の楽しい時が流れていきます。

懇親会の会場では、静岡の岡部光雄氏(87期)が中心となって製



写真上・関東支部同窓会役員、右から清水会長、児島、久我、野方副会長、監事役員
右下・お客様は左から静岡からの荻野同窓会会長、三浦事務局長、そして本告中部支部長
左下・今春から静高校長に赴任した浅羽浩氏

作された「岳南健児青春グラフィティ」と題した映像と音楽が流れ、雰囲気盛り上げていました。

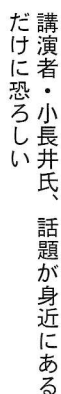
また、懇親会の途中でのアトラクションとして、同窓生では珍しい芸能人84期の高瀬莊一氏が岡本勘太郎氏とのコンビ「ホームラン」として登場。お二人が熟練の話芸で会場を沸かせていました。

会の締めくくりには、追遠歌と校歌を気持ちよく歌い上げ、児島副会長の発声による三本締めで、名残りを惜しみながらお開きとなりました。

四川と静岡の類似点を探る

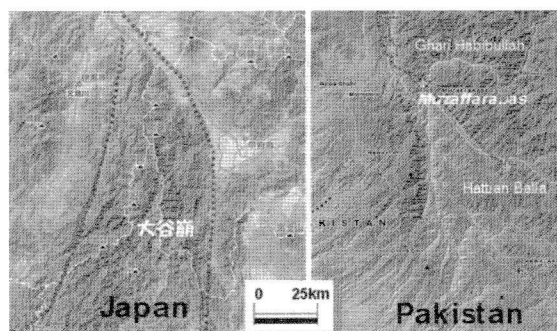
小長井 一男 (87期)

静岡の背後に聳える赤石山脈は、カシミールで見える地形と酷似している。糸魚川・静岡構造線と中央構造線の2つの大断層群に挟まれて聳え立つ山々、天竜川のようにいったん北に向かつて流れ大きく屈曲して南に向かう川筋などもそっくり。宝永四年（1707年）の地震で崩壊したといわれている大谷崩の白いむき出しの斜面は、カシミール地震で現れた白い斜面を髣髴とさせる。大谷崩から南に向かって流れる安倍川には崩壊地からの土砂が大量に堆積し、その結果、下流部で南に細長く伸びる賤機山の尾根の西、安倍川河川



東京大学卒業後、長岡技術科学大学、米ヒューストン大学を歴任し現在東京大学生産技術研究所教授。専門分野は地震後の復興戦略・構造物の耐震設計・地震時の地盤変形など。氏は大地震が起ることにかく現地に足を踏み入れる現場主義で、例えば2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震時にもすぐに現地に入り7月18日にはNHK・TVの「クローズアップ現代」に専門家として招かれ地震についての説明をされました。

敷のほうが、東の麻機低地に比べ50 m程高くなっている。



類似した2つの地形

左：静岡の北に聳える赤石山脈、右：パキスタン・カシミール地方

広がりを見せている。そして安倍川がその最も高い所を流れている。こうした地形の特徴をあぶりだすように、昭和49年の七夕洪水では、麻機から巴川流域の低地に大量の水が滞留した。

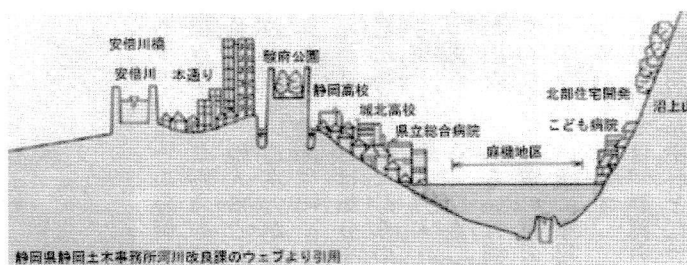
扇状地末端の低地は、昭和十一年の静岡直下地震でも大きな被害を受けた。現地に足を踏み入れた寺田寅彦は次のようにその状況を記述している。

「高松から大谷の町へかけて被害の最もひどい区域は通行止で公務以外の見物人の通行を止めていた。救護隊の屯所（とんしょ）なども出来て白衣の天使や警官が往来し何となく物々しい気分が漂っていた。」

国土地理院が発行する治水地形分類図には静岡平野に大きく広がる安倍川の扇状地が等高線で明確に示されている。旧河川は、安倍川の伏流水が扇状地末端近くから湧き上がっていた証左である。昭和十年（1935年）七月十一日の静岡地震の被害はこの扇状地末端部、あるいは駿河湾に沿う砂丘背面の高松、西大谷、東大谷、池田、国吉田で甚大であり、数字ではこれらの地域での全壊家屋の比率を示している。寺田寅彦の指摘のように帯状に被害が分布しているのが分かる。

赤石山脈を挟む二つの大構造

線（斷層群：糸魚川・静岡構造線と中央構造線）がまとまって動いたことは過去に確認されていないので、私たちの関心はつい想定東海地震、東南海地震などに向きがちである。だから中国四川省の地震で過去に大地震の発生が知られていなかった280kmにもおよぶ断層が動いたことは大きなショックであった。糸魚川・静岡構造線（地上部）は四川地震の断層とほぼ同じ約250kmほどの長さである。対岸の火事と看過できない。



安倍川が最も高い所を流れている

このような大規模な内陸の地震断層による地震の性格と、もたらした災禍の実態を調査するため文部科学省の支援を受け四川地震の災害調査班が結成されたが、中国では外国人の測量行為を大きく制約する法律があり、また関連する省庁も多岐にわたり調査の調整は大変であった。そして心配していたとおり、地震で大きな被害を受けた北川の街は、地震の四ヵ月後の豪雨で発生した土石流で10 mを大きく越える厚さの土石で埋もれてしまふ。このような地震後も継続する課題は、データの開示、共有、そして経験の伝承の重要性を日中双方の関係者に強く認識させることになった。

防災を念頭に置いた地形、地盤情報の共有、開示の動きは世界に先駆けて日本でようやく本格化している。こうした活動に深く関わっていく中で、静岡に生まれ育った体験が大きくものを言っていることをうれしく実感するのである。でもこっそりと告白すれば、過去の文献に地震被害の事例を渉獵する中で、もう少ししはじめに高校の古文を勉強していれば、と悔やまれることもあるのである。

(注) 講演は写真、図などを豊富に使っていたが紙面上割愛しました。

特別寄稿

長年にわたり関東同窓会会長を勤められ、いちばん同窓生の人となりをご存知の上杉さんに、気楽に執筆していただきました。

思い出に励まされて

60期 上杉 重吉



昭和十五年 静岡大火の直後、静中に入學、空襲被災の二十年に卒業し、旧制静岡を経て名古屋大学に入り、上京までの三年間、まだ焼け野原が目立つ名古屋だったが、色々と思いがけないことがあった。

静中で地歴を学び、郷土研究部で登呂（無名のとき）遺跡などの発掘を指導された下野和夫先生（戦後抑留されたシベリアで逝去）の夫人、由紀子さんと娘の洋子さんが在住の名古屋西区のお宅へおじゃました。近年、先生も靖国神社に祀られ、兄二人が比島で戦死した小生は一緒に参拝できるようになった。

大先輩との出会い、思い出

学生運動は文学部と理学部が中心で、大学当局と種々交渉に当たったが、偶然勝沼精蔵学長と懇談する機会を得た。興津の

坐漁荘で暮らしていた元老、西園寺公望の主治医も務めておられた学長は、静中（現静岡）の先輩（19回・明治三十七年卒）で、時々会おうと言われた。

また、国文学の松村博司助教は島田市出身で静中（42期、昭和二年卒）旧静岡（5回文丙・昭和五年卒）の先輩、屢々研究室へ呼ばれて話を伺った。先生は三十三年五月、四十九歳の時「栄華物語の研究」で日本学士院賞を受賞。

なお仏文学の新村猛教授の父君は、周知のように京都大学文学部教授で「広辞苑」編者の新村出博士。静中（7回、明治二十五年卒）の大先輩。

講談社に入社し、「幼年クラブ」「なかよし」など児童雑誌編集のあと昭和三十八年誕生の辞典出版部長を任命された際、碩学の新村博士に面接依頼したが、ご病気のため叶わず残念の極みだった。

先輩の長男との思い出

入学してすぐ「名古屋大学新聞」編集部に入部したが、一年生は専ら広告採り。初の夏休みの六月末も法学部の下山定彦兄（学習院卒）と二人で広小路や栄の商店を歩き廻った。そして東京と静岡への帰省は七月四日、東海道線で一緒にと話し合っていたところ、その前日、都合で

一日遅れる、お先にどうぞとの連絡が……。五日の夕方、下山兄の父で国鉄初代総裁・下山定則氏の行方不明が、そして翌六日常磐線北千住駅近くで轢死体として発見されたと報道され、全く驚いた次第。

一週間後上京し、大田区上池上の下山邸を訪れた。連日の家宅捜査も終わって総裁夫人と下山兄から「長男定彦が初の夏休み、名古屋からの帰京を楽しく待っていたのに、一日違いで：」「父は大正八年に卒業（34回）の静岡中学では一年下の弟、常夫さんと野球部で一緒に活躍きつと静中卒業生と会いたかったと思う：」等々の話を伺った。

定彦兄も名大卒業後、国鉄に入社し、初め名古屋駅で切符切りなど、後年は鉄道局局長を勤めたのち、ホテルアソシア静岡の社長となった。

平成の時代に入って、定年退職した小生は、野間省一・鈴木与平両氏（ともに静中44回）の伝記編纂の協力を講談社と鈴与から頼まれて、取材・編集等で毎月のように静岡へ。下山兄や多数の先輩・同窓生などと楽しく懇談の時を過ごしたことを、よく思い出しているこのころである。

「江の島会」に参加して

90期 加納 美智子

いつもの「江の島会」が十月二十四日（日）、いつものように江の島の恵比寿屋さんでいつもの時間で始まりました。例年は九月の第一日曜日と決まっていたが、今年は残暑を避けて十月に変わりました。参加された同窓生は二十七名でした。

静岡から母校副校長の重松修司先生、同窓会長の荻野覚さん、副会長の蔭山昌弘さんが参加してくださり、後輩たちの勉強ぶりや運動部の活躍ぶりのお話をいただきました。

野球部のことではちょっと先生方の表情が冴えませんがしたがり。特に荻野同窓会長から、野球部後援会財政の窮状が報告され、皆さんに募金の協力を訴えていたのがとても身にしました。

私は、この「江の島会」には三度目の参加になりますが、先輩後輩、同窓とはいえ、初対面の方が多く、緊張しましたが、皆さん自然と話の輪にお誘いくださり、学生時代を懐かしく語り合うことができました。それに、それぞれいろいろな分野で活躍しているお話しは、私にはとても新鮮で、新しい世界を知った

思い出した。そして皆さんからエネルギーをいただいたことをうれしく思います。

今回は例年に比べて参加者がちょっと淋しいのが気になりました。次回の「江の島会」では常連の方々ばかりでなく、近県にお住まいの方々はもちろん、それにもまして100期以降の若い皆さんにお会いできれば幸いです。

恵比寿屋さんのお料理がとてもおいしかったことを付け加えておきます。



関東66期 第二十三回名所散策会 京浜四大本山寺めぐり 第二弾

馬淵 逸明

快晴に恵まれた平成二十一年九月十一日(金)、66期一行十八名、東急池上線「池上駅」十時半集合、日蓮宗大本山「池上本門寺」へ向かった。京浜地区には四つの大本山の寺、芝増上寺(浄土宗)、池上本門寺(日蓮宗)、川崎平間寺(川崎大師・真言宗)、鶴見総持寺(曹洞宗)があり、今回の参詣は、去る六月二十三日の増上寺に続いてのもの。これらの寺院は、国道一号線のほぼ一直線に位置しており、何れも各宗派を代表する大寺。

お寺の特別な計らいで、我々一行のために大堂(祖師堂)において同期会と我々一同の弥栄祈願のための読経ならびに野坂執事長の宗派を超えた蘊蓄のある法話を頂戴した。その後、案内と説明役の僧の先導により加藤清正の供養塔や、紀州徳川家をはじめ、幸田露伴、大野伴睦、力道山など有名な人の眠る墓所や、和様、唐様の折衷様式の建築物として有名な国の重要文化財「五重塔」、日蓮上人直筆の書や上人にまつわる宝物がある「霊宝殿」、法要や集会、コンサー

トを行う近代式仏堂建築の「本殿」内など説明を受けながら見学した。霊宝殿は通常は日曜日のみの開館であるが、我々のために特別に開館していただいた。昼食は境内にある「朗峰会館」

内の和食「花むら」。多田三夫君の乾杯により宴が開始され、それぞれ思いをふるさと静岡に馳せ歓談、旧交を温めた。昼食後は、毎年九月のこの一週間だけ開園となっている本門寺の奥庭として名勝の誉れ高い日本庭園「松濤園」へ。

この庭園は桂離宮の建築と造園で有名な小堀遠州(一五七九〜一六四七)の作庭。池泉回遊式になっている庭園内の景観を楽しむながら散策、流石の美しさに圧倒された。幕末の戊辰戦争の際、境内に新政府軍の本陣が置かれ、幕府の勝海舟が新政府軍の西郷隆盛をこの地に訪ね、庭園内のあずまやで江戸明け渡しの会見が行われたという記念碑がいまはなきあずまや跡に建っており、暫し幕末の往時を偲んだ。

十五時半ごろ散会となったが、旬日後、幹事の大村敏夫君が、当日の名所旧跡の散策記録を写真とともに名文の故事来歴などの解説を添えて編集した小冊子「池上本門寺散策の栞」を作成、参加者全員に送付、意義深かった今回の散策会を夫々が回顧し

た次第。(写真参照)

この「しおり」は、多田三夫君が以前に作成したものが引き継がれ、いまや散策会にはなくてはならない付きものになっている。

そもそもこの散策会は、現役の時代、夫々が忙しかったため、長年にわたり東京に住んでいながら東京を知らないという共通の意識が事の発端で、現役を卒業し、自由の身になった面々が集まり、平成十五年十一月十日に第一回が行われ、以降年四回程度の頻度を経て今回で二十三次を迎えた次第。

これまで、場所の選定、昼食場所の決定などは聞き込みや下見による情報収集など、事前の準備に万全を期してきた。まだまだ行くところはたくさんあるので、皆の協力を得て更に充実した内容に心がけ継続していきたいと思っている。

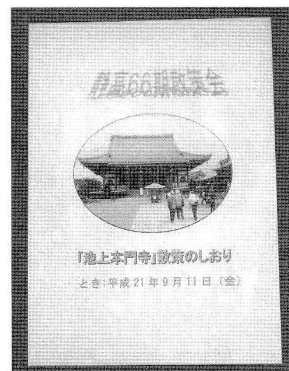
いままで散策したところは次の通り。

- 一、「拿捕・北朝鮮工作戦」(お台場)
- 二、新宿御苑・絵画館・明治記念館(新宿・信濃町)
- 三、神保町本屋街、ニコライ堂、湯島聖堂、神田明神(神田・御茶ノ水)
- 四、芭蕉博物館、万年橋、清澄庭園、江戸深川資料館、富岡八幡宮(門前仲町・深川)
- 五、横浜中華街、横浜グランドホテル「マッカサー元帥室」(横浜)

- 六、多摩・武蔵野陵(大正・昭和天皇、貞明・香淳皇后)・高尾薬王院(八王子・高尾)
- 七、柴又帝釈天、矢切の渡し(柴又)
- 八、靖国神社(昇殿参拝)、遊就館、千鳥が淵(九段)
- 九、皇居東御苑・二重橋、楠正成銅像(丸の内)
- 十、国立科学博物館、恩賜上野動物園、不忍池、旧岩崎邸(上野)
- 十一、都立葛西臨海水族館・同公園
- 十二、相模博物館、江戸東京博物館、旧吉良邸・泉岳寺(両国・高輪)
- 十三、参議院・議場、天皇控室(ガイドつき)、憲法記念館(永田町)
- 十四、横浜動物園「ズーラシア」・珍獣動物園(横浜・都筑区)
- 十五、浅草寺・六区街(ガイドつき)、隅田川下り(浅草)
- 十六、上野寛永寺・輪王寺・東照宮・黒田記念館(ガイドつき)
- 十七、谷中墓地、天王寺、浄明院、長屋住宅(ガイドつき)(日暮里)
- 十八、川越・喜多院、旧川越城本丸、蔵の町、菓子屋横丁(ガイドつき)
- 十九、調布・神代植物公園(ガイドつき)、深大寺(調布市)
- 二十、北鎌倉・円覚寺、東慶寺、浄智寺、建長寺(ガイドつき)
- 二十一、鎌倉・鶴岡八幡
- 六、多摩・武蔵野陵(大正・昭和天皇、貞明・香淳皇后)・高尾薬王院(八王子・高尾)
- 七、柴又帝釈天、矢切の渡し(柴又)
- 八、靖国神社(昇殿参拝)、遊就館、千鳥が淵(九段)
- 九、皇居東御苑・二重橋、楠正成銅像(丸の内)
- 十、国立科学博物館、恩賜上野動物園、不忍池、旧岩崎邸(上野)
- 十一、都立葛西臨海水族館・同公園
- 十二、相模博物館、江戸東京博物館、旧吉良邸・泉岳寺(両国・高輪)
- 十三、参議院・議場、天皇控室(ガイドつき)、憲法記念館(永田町)
- 十四、横浜動物園「ズーラシア」・珍獣動物園(横浜・都筑区)
- 十五、浅草寺・六区街(ガイドつき)、隅田川下り(浅草)
- 十六、上野寛永寺・輪王寺・東照宮・黒田記念館(ガイドつき)
- 十七、谷中墓地、天王寺、浄明院、長屋住宅(ガイドつき)(日暮里)
- 十八、川越・喜多院、旧川越城本丸、蔵の町、菓子屋横丁(ガイドつき)
- 十九、調布・神代植物公園(ガイドつき)、深大寺(調布市)
- 二十、北鎌倉・円覚寺、東慶寺、浄智寺、建長寺(ガイドつき)
- 二十一、鎌倉・鶴岡八幡



静高66期「池上本門寺」散策会 松濤園にて 平成21年9月11日



小冊子「池上本門寺散策の栞」

宮、大仏、長谷寺、稲村ガ崎古戦場(ガイドつき)
二十二、芝増上寺、徳川霊廟、東京タワー、NHK放送博物館、愛宕神社(御成門・愛宕山)
二十三、池上本門寺・墓地、五重塔、本殿、霊宝殿(大田区池上)

同期・同窓会 いろいろ情報

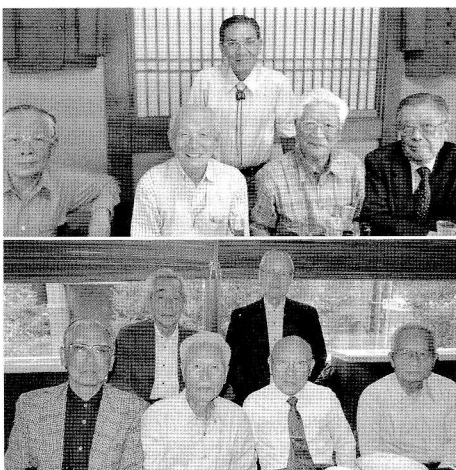
59期関東同期会

並びに菅原操君の 国家友誼賞受賞に就いて

59期 朝比奈 正二

恒例の秋季同期会を快晴に恵まれた十月十五日(木)午後一時より、中央区八重洲の「北海道」で開催、十一名が参加した。参加者の健勝を祝しての乾杯の後、懇談に入った。

実は前回の同期会の出欠通知返信率が78パーセントと、従来の95パーセント前後を大きく下廻ったため、事務簡素化等々の見地より次の如くアンケート調査を行った。即ち「同期会の案内を①従来通り送ってほしい②出席できないかも知れないが



去る十月一日の中国建国記念日に先立ち、九月二十九日「国家友誼賞」受賞式が行われ、菅原操君が受賞した。

菅原操君、 中国「国家友誼賞」受賞

写真(上) 左より田澤義彦、増田眞一、朝比奈正二、橋爪壮、小花敏郎
写真(下) 前列左より内田武二、長谷川邦三、菅原操、高橋裕、後列、狩野和男、瀬端一男

送って欲しい ③出席するつもりは無いから送らなくてもよい」この結果、①が9名、②が16名、③が2名、回答なしが2名で、②が最も多く「出席できないとも縁を切りたくない」という気持ちの表れか、また会員のお大半が八十三歳に達しているため今後は年一回(春)の開催に決めた。午後三時過ぎ、来春の再会を約し、別れを惜しみつつ散会した。

り受賞を受ける菅原君。菅原操君略歴
静中59期生、東大工学部卒、国鉄施設局長、常務理事、北海道総局長歴任。後半は鉄道の海外協力を進め、イラン新幹線、台湾高速鉄道の計画など、多くの国の都市交通について技術協力を行う。特に中国重慶の都市モノレールの実現に尽力、専門家チームのリーダーとして活躍した。



古希雑感

74期 藤原 經史

「人生五十年」と言われた時代から今は「人生八十年」。そのうち「人生百年」と言われる時代がくるかも。一般的に動物は成長期の五倍生きられると言われています。そうすると人間百二十五まで生きられるということになります。古代の大王や天皇が100歳以上生きたと言うのも、あながち嘘でもないのかも。私は幼少の頃、五十歳まで生

きられるかと思ったりした。今七十歳を迎え、びっくりしてあります。そんなわけで、今年「古希の集い」に、小学、中学、高校、会社同期会と参加。

静高74期生は、毎年七月四日に、静岡駅前のホテルに集まり、懇親会を開催しています。今年は特に「古希の集い」と言うことで参加者も多かったと思います。学年で三百五、六十人いた人のうち、すでに五、六十人が物故者となっており、びっくりしました。

自分が古希を迎えたこと、まず親に感謝です。特に健康な身体に生んでいただいた母に。私事です、今年は父の三十三回忌で、姪や甥ら三十人ほど集めて法事をしました。父も母も生きていれば百歳以上、長男でさえ生きていれば百歳近い歳です。

政権交代し、世の中も大きく変わろうとしています。民主党のマニフェストも心配事だらけですが、どうなることやら。しっかりと頑張る、よりよい日本、外国に馬鹿にされない国家を建設してほしいものです。

同期の親友、榛葉君の息子さんが防衛副大臣に就任。時代も若手の活躍場になってきたようです。ぜひ歴史観をもっていただきたいと思います。

東洋哲学者の一人に朱新仲(南宋)という人がいます。彼

の説いた一つに「人生五計」というものがあります。すなわち一、生計—いかに生きるか、二、身計—人として社会にどう処してゆくか、

三、家計—一家をどう維持してゆくか、四、老計—いかに歳をとるか、五、死計—どのように死ぬか、ということであります。

今古希を迎え、人生五計のうち老計、死計を考えなければと思ひ、見直しておりましたところ、とんでもないことに気が付きました。もう一度、生計、身計、家計を考え、とりわけ今いかに生きるかの生計を真剣に考えなければ、老計、死計に到達できないことを知りました。いずれば行かなければならない処。それまでは健康で元気でありたいと思っております。

その健康の維持には、まず歩くこと、声を出すこと、よい水(とりわけ富士山の深層水)をよく飲み、身体の悪い物を小水で流し出すことです。歩くことでは月に二十万歩以上、百五、六十キロメートルを目標、ちなみに今年九月末で四月から千キロメートル歩きました。

東海道、中仙道と探歩会に参加、完歩し、現在は旧鎌倉街道の探歩会に参加。これからも元気で人生を歩き回ります。お互い元気でいきましよう。

仲間の活躍

句文集の紹介

67期 小杉 弘

「無碍」 大石 柏人

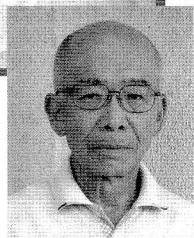
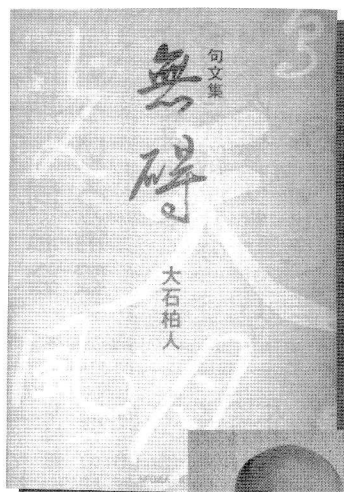
八月十九日、自宅のポストを覗くと、ゆうメールが入っていた。差出人は同期の大石脩而君だった。封を開け取り出した。程良い大きさの本である。装丁もなかなか素敵です。表紙は上品な黄土色、本体は薄紫色を使っている。表紙の題字には句文集「無碍」大石 柏人（柏人は雅号）と書いてある。表紙の題字の無碍はか飾り筆字は、彼自身がデザインされていると思う。

本は、全294ページ。編集は二部構成になっている。第一部は、目次のあと1ページから135ページまで、394句が詠まれている。

纏められている。難しい字や言葉には、ルビや説明が付記してある。また、五七五の十七文字と各ページの空白がよくマッチし、読みやすく心温まる思いを感じる。

137ページから始まる第二部は、七月十七日から十月二十四日までの100日間、一日一句、100日100句が詠まれ、正に俳句日記になっている。その上同日の子規の句が付記されている。さらに、どちらの句にもコメントが付記されている。これが実にさわやかで面白い。彼らしく率直でワサビの効いたものもあり、それでいて温もりがある。彼の豊かな感性と博識・哲学を感じる。また、日常の生活観や家族構成まで読みとれる。兎に角久しぶりに楽しい本に出合った思いがする。

同窓生の皆さんに是非お読みいただければと寄稿した。



句文集「無碍」と著者

句文集「無碍」(むげ)

著者 大石脩而(本名)

発行所 NPO法人双牛社

〒102-0084 東京都千代田区

二番町1、一番町ハイム239

TEL 03・3261・0323

著者略歴 静岡市出身。1932年

生れ。東京大学社会学科卒。日本

経済新聞社勤務、文化部長、社会

部長。(取)情報統括本部長、(株)日

経スタッフ社長など歴任。元千葉

敬愛短大教授。

著書 高学歴社会の若者たち(日経

出版)、学歴社会(東大出版会)。

東大卓球部総監督。

趣味 碁、書道、俳句、ゴルフ

相場の格言

76期 鈴木 浩

少し自虐的かも知れませんが、私は、大の怠け者で薄志弱行を地でいくような生活をしてきました。あまりにも遅い話ですが、六十代になってやっと軌道修正を心掛けようと思う体たらくです。

唯一の例外が四十年少し続いている株式投資です。これも考えようによっては怠けの派生のようなものかもしれません。何しろ人の権で相撲をとるような感がありますから。

最近は大分縮小した感じの投資ボリュームですが、一番長期のものは端株になってしまったとはいえ四十年ほど経っており、

基本的には長期投資が私のスタイルです。結果は終盤に向かった、たいしたことはなかったということになりそうです。まったく思い通りいかない世界ですが近年話題になっているデリバティブに類する考え方は欧州発の考え方なのですが、実は大阪堂島の地が発祥だと聞いております。

堂島米穀取引所での米相場、米という大切な商品に対する、時代の要望が先物取引という考えをつくったようです。

人々の悲喜こもごもの人生模様が絡んだこの世界には、当時から大変示唆に富んだ格言が多いようです。

格言とは少し大袈裟な感じもありますが、その先人の至言にしたがって行動していれば、大きな成果を得られたと思います。残念なことには大体は逆の行動をとってしまい、自分の弱さを認めざるを得ません。

いくつかの有名なものを挙げてみます。

- 人の裏に道あり花の山、いずれ散るとも散らぬ間に行け。
- 利食い急ぐな損急げ。
- 株価よりも企業を買え。
- 天井三日、底百日。
- 見切り千両、損切り万両。
- 金のなる木は水では生きぬ、汗をやらねば枯れていく。
- 相場の金とたこ糸は出し切る

な。

どろどろした世界に咲いた徒花のような言葉は一つの知恵、指針ともいえるものがあるようです。残りがどのくらいあるのか分かりませんが、私は時に設立されて年月の経っていない若い企業に夢を託して、魅力的な世界を今しばらく楽しんでいきたいと思っています。

▽事務局より

平成二十一年七月開催の同窓会総会において、ご質問がありました「静中・静高125周年記念誌」の保管につきまして、以下の通り報告します。

- 一、平成十八年九月、記念誌を同窓会本部からの要請で40部購入。
- 二、これを会員希望者に以下の通り販売しました。

平成十八年 21部
平成十九年 2部

合計 23部

三、残余17組は、関東同窓会事務局で1組、同窓会本部に16組委託しています。

以上の通り関東同窓会で責任をもって保管しています。会員の皆様でご購入の希望がありましたら、1組3000円でお分けします。事務局までお申し出ください。

64期関東同期会

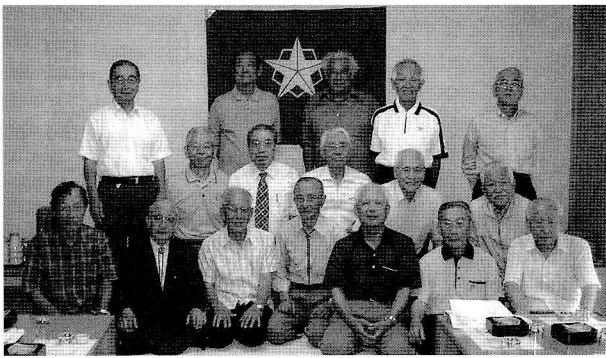
若い企業家にも

聞かせたかった懐古談

64期 豊納 健蔵

静中・静高関東64期会は今年七月七日、十一時半から田町の「道灌かぶり」で開かれた。

この会は、昭和十八年に入学した者、途中戦災などで他校に転出した人、逆に転入した者も受け入れるという裾野の広い会。昭和三十三年、故・名波倉四郎君などの肝入りで発足、以後連続して出席している人は、既に五十余回を数え、会の推移・雰囲気・同期生の動向等をつぶさに知っていると思う。



「道灌かぶり」での関東同期会

私は長い間ご無沙汰していたが、世話役の方から熱心な誘いを受け、昨年から出席させてもらっている。だから会の空気や友人たちの動向等についての知識に乏しく、いわば新人。見・聞・感ともにみな新鮮で喜ばしいこと、残念なこと、各々感慨多々であった。

今回不参加であった人達への報告の意を込め、当日のあらましを申し述べてみたい。

今年は、静岡から石原良昭君、吉井駿亮君と、ほぼ毎年顔を出している女性、松島玲子さんの参加を得て二十名。私は特別の人を除いて顔と名前が合わず、お互いに名乗りあつて初めて「おうおう」と暖かい歓迎の声を挙げ、再会を喜び合った。

会は恒例の集合写真の撮影から、弔意を込めて物故者への哀悼の礼を悼み、以降は佐野旭君の明るいユーモア溢れる名司会、増田政雄君の乾杯の発声に始まり、個々の近況報告、静岡在住者の消息、高校野球の組合せ披露。はたまたメダカの育て方、佐野君のホールインワンの紹介などなど話は続いた。

そんな中、この会が素晴らしい会合として長く続けられてきたのは、多くの同期生の理解と協力のほか、時としては私費の支出もいとわず努めてくれた野

澤正憲君の好意が誠に大きいと皆が絶賛。多くの同期生より尽力に感謝したいと拍手が起こっていた。

現在も榊富士越の会長をしている野沢君から、若い企業家にも聞かせたい創業当時の苦労・心労・気力などについて、低姿勢でかつ控え目ながら、多くの者の感動を呼んだ懐古談があり、再び拍手が贈られた。

彼の話要約すると、創業時から大変な努力・苦心を重ねたものの成果が得られず、時としてサラリーマンになって年々昇進し、生活も安定しつつある友人達を羨ましく思うことも多かったと述べた。しかし苦境を乗り越えて頑張り続けた結果、三十三歳くらいから苦労が酬われはじめ、順次満足できる成果を収められるようになったと話した。

現在は事業を息子さんに引き継ぎ、世間様への感謝の気持ちを含めて、四国巡礼を行なっているとのこと。さらに子供さんから父親に感謝の念を綴った手紙が読まれたが、最後に「苦労したよ」と実感のこもった重い響きの一言があった。

この時は皆うなづきながら胸を熱くして耳を傾けた。野沢君同様、起業で苦労された後、成功を収められた人も他にもいると思うが、この話は誠

に素晴らしく拝聴した。

お開きが近づいた二時過ぎ、アルコールも大分まわり、にぎやかな席に「やらまいか」の声。吉井君のリードで校歌「岳南健児」の斉唱。不思議なもので校歌のときは中学生の昔に戻り、背筋の伸びきった十八歳の青年の姿であった。そして鈴木明郎君の一本ノメでお開きとなった。

.....

▽リラックス散策のすすめ

最近の話題には健康の話が多い。具合が悪くなったことが多かったので、私が心掛けている手軽な健康法を披露しておく。

一、医者のみならず、健康に関心のある人が勧める最も手軽に出来る事は、毎日歩くことであるが、私が言いたいのは、二、我々年配者は、医学書に決まっているように書かれていた距離や時間や歩速にとらわれすぎず、ハードにならず、その日の体調と気分に合わせて気楽に行う。

三、公園、川辺りなどの散策が最も望ましく、時として立ち止まって休息、花を愛で、鳥のさえずりに耳を傾け、リラックスして歩くこと。

四、小型ラジオを胸のポケットに入れ、これぞという番組を

楽しみながら歩くこと。この歳になっても学習することが多い。

拙宅は多摩川べりから五百メートルほどなので、ほぼ毎日一、四のような心構えで歩き、良い空気と気分を満喫しながらリラックス散策を続けている。

同窓会からのお願い

関東同窓会は会員皆様の年会費で運営しております。1年間3000円です。同封の振込用紙で振り込んでください。

また年1回行われる総会の運行、実施は輪番制です。来年は88期になります。よろしくご協力ください。写真は今年担当期として活躍いただいた87期の面々。



Golf Golf Golf Golf

37回叩高ゴルフ

清水 雅尚 (77期)

関東の名門コース、しかも都心に一番近い川崎緑地公園ゴルフ場で行われている叩高ゴルフ大会は1年半ぶり、十一月十日(火)開催した。

グリーンのほとんどが砲台、しっかりオンさせないと奥のバンカーへ、さもないれば手前からごろごろ転がり降りてしまう難コース。

この時期としては絶好の快晴・無風のコンディション、優勝したのはベテラン清水照彦(61期)先輩。グロス101、ネット74・



6。「楽しくリズム良くプレーできました。何より同窓生という同伴競技者とプレーできたのが気分的にリラックスできました」と清水さん。今回の参加で最高年者、82歳と思えぬパワーで元気いっぱい。準優勝は実石欣哉(71期)さん。そして3位は奥さんでダブル受賞となった。ベストグロ賞は若手の伊沢佐知子(82期)さん。グロス94は、

難コースを無理に制覇しようとするのではなく、淡々とラウンドできた結果と微笑していた。参加者は以下の人達(敬称略)大石康博(68期)、大石次男(61期)、荒谷じつ子(68期)、仁科光司(77期)、三浦位通(77期)、秋山好(82期)。

なおこのゴルフ大会は関東同窓会より一部賛助金をいただいています。次回以降は是非ご参加ください。

64期「ゴルフ」

佐野 旭

第49回合同ゴルフ会は、五月十四日足柄森林ccで開催。参加者は十名。毎年春は四月に開催してきたが、過去2回雨天中止となった前例を考慮して、五月に変更した幹事苦心の効あって、快晴に恵まれた一日だった。しかし、予想外の強風に見舞われ、

若干寒さを感じながらのラウンドとなった。

優勝は時田勝博君、ネット84。幹事役のプレッシャーにめげず3度目の優勝(うち2回が幹事役)。

準優勝は野澤正憲君。ネット88、大会名誉会長の名に相応しく、優勝4回(最多)、準優勝3回を誇る。31回大会からの参戦ですが、2回の優勝歴を持つ。

準優勝は、当会発足当時からご協力いただいている61期の大石次男先輩、グロス103、ネット85の成績。過去優勝・準優勝各2回の実力を今回も見せてくれた。

3位は61期の清水照彦先輩。グロス96、ネット90でベストグロ、ニアピン賞も獲得。強風下でのトシ(失礼)で両賞とバーを4こ獲得できたことは見事。

そのほかのニアピンは大石次男先輩、伊藤剛君、そして佐野旭。体調不良ながらもいつも当会を盛り上げてくれている伊藤君。残念にも二大会連続のブービー。だがニアピンに昔日の片鱗を見せていた。

前回優勝の村上喜代二君、ネット90で清水先輩と並ぶもハンディ差で一步譲る。

永田進一君は最終ホールでダブルスコアを叩いて7位。マレーシア帰りの漆畑茂君は前回50

Bで苦しんだホールはボギーで征服したが、全般に生氣なく8位。ダブルスコアホールを競うがとき有様で、時田君優勝時にはメーカーか?ブービーか?のジレンマとなった感あり。

プレー終了後、健康と自然食に詳しい村上君の提供の珍味の副賞付で表彰式ののち懇談。今後の大会開催について意見交換し、来年秋をもって、ひと区切りをつけることに決定した。

ラウンド中、先輩二人は我々を凌ぐ長打を連発、小技も冴えを見せ、「64期はトシヨリに見えるなあ」と度々ささやかる始末だった。

先輩を見習い無理のない程度に頑張るのか、健康管理に努め、残り僅かとなった大会に全員元気で参加されんことを祈念して止みません。

(五月二十日記)

秋の大会は十月三十日、春同様足柄森林ccで、11名が参加して行われた。

前年雨のためハーフラウンドで中止となった点を考慮して、過去八年間の天気実績からこの日を選んだ結果、快晴、無風、暖かな気温のもと、一日中霊峰富士に見守られてのラウンド。

優勝は永田進一君。グロス99、ネット87、「残る3回のうち一

度は優勝したいと思っていた。出だしが悪かったのかどうかと思ったが……との挨拶のように後半調子を上げアウト53、インではバーデイを出すなど46、さらにニアピンも獲得。

準優勝は清水照彦先輩、グロス93、ネット88でまたベストグロス賞。3位は時田勝博君、「6並びでスタート」、8番でバーをとったが、午後は「7並びスタート」、結果は前半・後半とも50のスコア。入賞はニアピン一個だけ。

そのほかニアピンは小川哲司君と佐野旭。メーカーは漆畑茂君。「飛ばなくなったし距離感」はアワネーシ、こんなに疲れたゴルフは始めて」とぼやきもでる。

四国八十八カ所の「お遍路参り」を見事結願、二日前に帰京したばかりで、現地の土産を持参して参加した野澤正憲君。疲れがとれぬ上、同伴競技者に恵まれなかったのか、恐らく初めてであろうブービーに終わった。

四国名産が賞品の表彰式のあとは、いつもの珍談、奇談の続出、平素は元気がなくてもこの会でみんなから「笑いと元気」を貰い、来春の再会を約して家路についた。参加者は前記7名のほか大石次男先輩、村上喜代二、石原良昭、伊藤剛の諸君。

同期会の報告

83期のみなさんへ

おーい、お元気ですか。
とうとう還暦を超えたけど、
前途はなお遠く、道は見通せる
わけではない。やっぱり各自自
立して生きていこう、お互いが
んばろう！と、このような冒頭
となりました。

九月二十七日(日) 十八時半
から二十二時まで、静岡市浮月
楼の一角に出現したJazzラ
イブスポット「Life Time
me」で、私たち静岡83期の応
援団長小杉敏(こすぎさとし)
君の初CDを記念した凱旋Jaz
zコンサートが行われた。
クワルテットのリーダーがベー
スマンである小杉君で、「日本
Jazz界有数のベーシスト」
となった彼とそのチームが、ア
メリカンジャズをテンポ良く私
たちにぶつけてくれた。

日曜日の夜ながら、83期同期
の皆さんが会を盛り上げようと、
家族・友人を伴って六十名余り、
東京からも参加してくれ、おか
げで会場は大盛況となった。

病のあと、からだが不自由と
なっている増田裕君もカイロの
お弟子さんと一緒に来てくれた
し、来れなかった二人(仕事で
兼子君、孫の病気で杉山君)か

らも会費を頂くなど、もと応援
団長小杉君をみんなで応援して
くれた。みなさん、本当にあり
がとうございました。(次回が
あったら、またお願いだよ！)

83期 西野直樹

是非ご覧ください

皆様、急に寒くなりましたが、
お元気でいらっしやることと存
じます。

この度、共著ですが平凡社の
別冊太陽の「1000人の心に響
いた絵本100」というムック
本が発刊されました。

執筆者は俵万智、谷川俊太郎、
柳田邦男、久保純子、山口晃
(画家)、鈴木光司ら100人で
す。私は130ページに書いて
おります。

短い文ですので、書店でチラ
リとご覧ください。クリスマス
に、お年賀に、お孫さんなどに
絵本をと考えていらっしやる方
は、どうぞご参考にしていただ
ければと思います。

77期 中川素子

原稿募集

会報は十二月と六月の2回
刊行しております。同期、同
窓生の動静を事務局宛てお寄
せください。

静岡便り

静岡本部で同窓会総会 十一
月二十三日、静岡駅南口にある
ホテルで本部の同窓会総会が開
催された。会のお手伝いと仕切
り役の今年の幹事は88期生。

関東支部からは清水汪会長は
じめ浦田、野方、久野副会長が
出席した。

会は事業報告や会計予算案な
ど型通り進むと思いきや、突然
野球部後援会への援助依頼があっ
たり(写真)して、大いに盛り
上がり、ついで記念講演。講演
者は「ストレス社会を生き抜く
ために」と姫野友美さん(88
期)。姫野さん独特のテンポあ
る軽快な語り口調で話は進む。
聴衆は「うんうん」とうなず
くこと然り。最後は皆で合唱す
るすばらしい楽しい講演だった。

その後会場を移し懇親会。
「校歌を4番まで」歌いスター
ト、さらに各期の応援指導部の
指導により、応援歌、追遥歌な
どつぎつぎ歌い込んでいった。

野球部 「静かに暖かく見 守ってください」

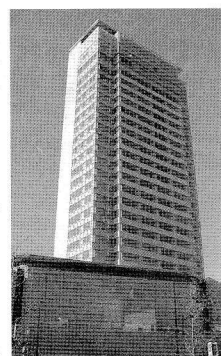
「おい、野球部はどうなって
いる。イチコロでどうしようも
ない」突然のメールに驚く小生。
間髪を入れず別人からのFAX
が入ってくる。何でもいから
学校へ来いとこの指令。山梨県の
学校とオープン戦の最中。バッ
クネット裏には素人評論家が1
00人近く。一投一打にやんや
の喝采。そんな応援者とは離れ、
中堅手後方から冷静にそして心
配そうに試合を見守る人がい
た。野球部OB会長の栗田重徳
氏(83期)。

「監督もちろん選手も真剣
に練習しています。このような
時もありますから、暖かく見守っ
てください」と言うが、もう6
年甲子園にご無沙汰、是非に行
きたいものだ。

葵タワーまもなく竣工

静岡駅北口、旧日興證券ビル
後に建築中の高層ビル「葵タワー」
が平成二十二年三月完成する予
定。

タワーは高さ約125メートル、
地上25階、地下2階で、店舗、



美術館、オフィス、レストラン、
宴会場などが入る。

「それだけでなく静岡には高
層ビルがなかったので楽しみに
している」と同窓生。竣工が待
ち遠しい。

編集後記

◆このたびは多くの同窓生から
たくさんのお原稿が届きました。
お陰さまでこの号で掲載できな
かったもの、一部割愛させてい
ただいたものもあります。ご了
承いただきました。ありがとうございます。
◆4ページに掲載しました66期、
馬淵逸明さんの「名所散策会」、
非常に興味深く読ませていただ
きました。今後数回連載してい
ただきますのでご期待ください。
(77期・村松貴彦)



来年度の総会をお願いします。88期生

鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴木与平 (76期)

〒424-8703 静岡市清水区入船町11-1
TEL 054 (354) 3015 (秘書室)
京浜支店 〒140-0013 東京都品川区南大井6-25-3
ビリーヴ大森5F
TEL 03 (6404) 2100

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役会長 岩井平一郎 (57期)

本 社 〒422-8004 静岡市駿河区国吉田3丁目1番1号
TEL 054 (262) 1111(代)
東京支社 〒104-0031 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F
TEL 03 (3272) 4651 (代)

株式会社 富士越化成

代表取締役会長 野澤正憲 (64期)

〒140-0004 東京都品川区南品川2-17-11
TEL 03 (5783) 3841
FAX 03 (5783) 3755

お茶の心を伝える 愛 国 製 茶

代表取締役会長 馬場 泰男 (64期)

本 社
東京都新宿区西早稲田3-7-9 TEL 03-3207-1611(代表)
高田馬場店
東京都新宿区高田馬場4-12-7 TEL 03-3363-6611(代表)

東京無線タクシーグループ 公和自動車交通株式会社

〒162-0813 東京都新宿区東五軒町3-3 ☎03-3269-3281

都心のオアシス・ゴルフ練習場 (株)公和ゴルフセンター

大江戸線・若松河田駅隣り ☎03-3202-6558

代表取締役 山中博司 (73期)

自動車・火災・傷害保険 (株)大高保険事務所

代表取締役 清水雅尚 (77期)

〒150-0011 東京都渋谷区東3-15-8
TEL 03 (3406) 9350
携帯 090-7800-3767

同窓会で人の輪を!!

野方重人法律事務所

弁護士 野方重人 (77期)

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3
敷下ビル6F
(TEL) 03 (3251) 2348
(FAX) 03 (3257) 0820

昼2時より夜11時まで診療 タカラ歯科診療所

代表 ^{フ ラ シ ナ ア キ オ} 藁科名雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩5分
TEL 0120-376-480
FAX 03-3710-8847
〒153-0051 目黒区上目黒2-18-13

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥巢修税理士事務所

税理士 鳥巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17
TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848
E-mail: tosu@mtj.biglobe.ne.jp

調剤薬局……関東・東海・関西中心に135店舗

株式会社 アイセイ薬局

健康と幸せを願って

代表取締役 岡村幸彦 (93期, 応援指導部)

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-14-5
TEL 03 (5651) 7200
<http://www.aisei.co.jp>